

九州一の 就農支援県へ

あ あ し し た た
安・就・多への土づくり

安 安 定的に
新規 **就** 農者を
多 多 く確保する

鶴崎工業高校 麻生 晃大

企業立地推進課 荒金 弘昌

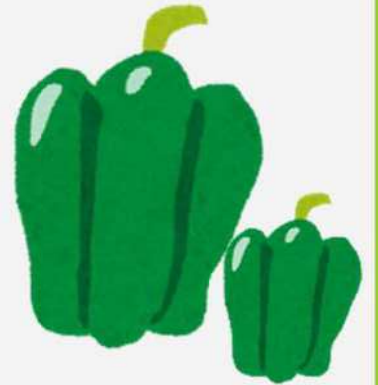
西部振興局 岡田 直城

こども・女性相談支援センター 加藤 瑞紀

中部振興局 小春 丞真

目次

- ① 導入
- ② 現状調査
- ③ ペルソナ設定
- ④ 実態把握・課題設定
- ⑤ 事業提案





大分県農業の現状

▶ 大分県の農業の実力は **中堅レベル**

耕地面積

54,000ha

出所) 農林水産省「令和5年耕地面積」2023年

農業産出額

1,245億円

出所) 農林水産省「農業産出額及び生産農業所得」2022年

農業経営体数

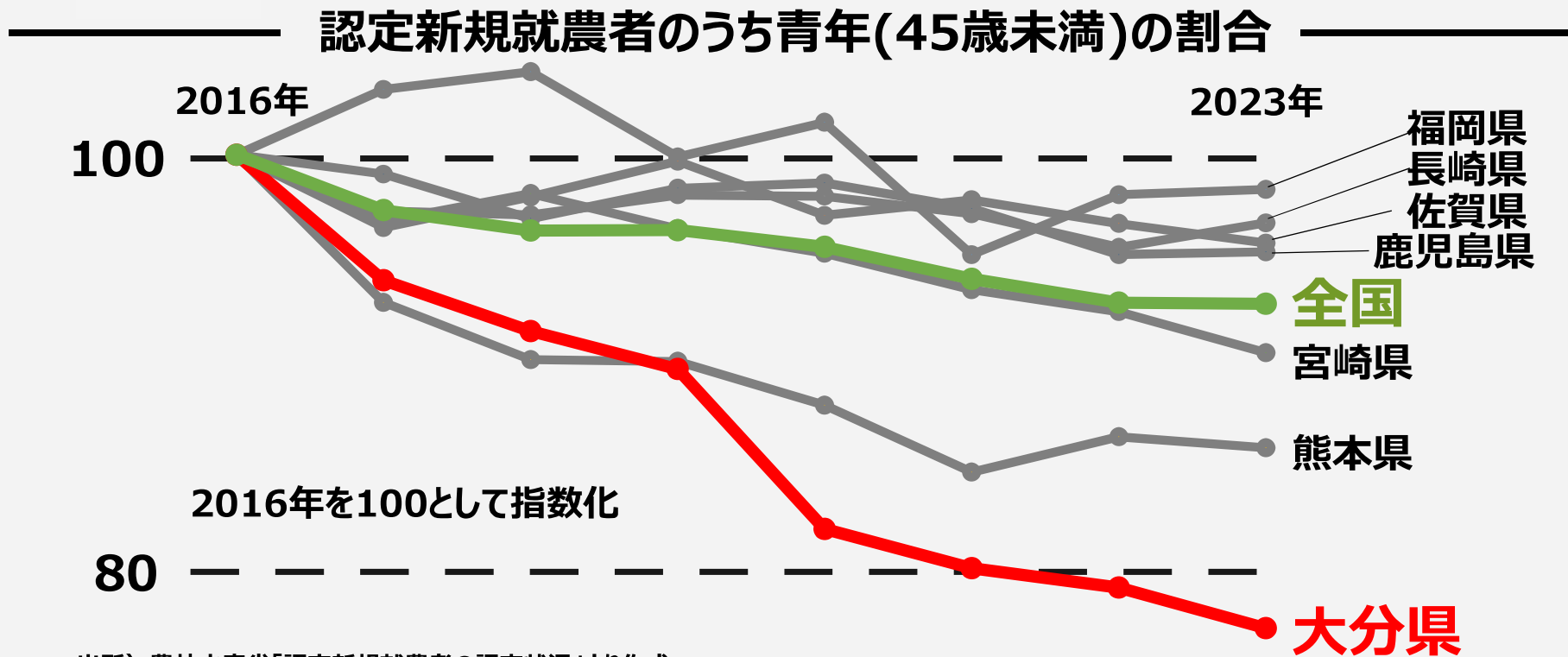
19,133経営体

出所) 農林水産省「農業センサス」2020年

すべて
全国 **26** 番目

認定新規就農者の状況

▶ 45歳未満 の新規就農者が少ない



課題ツリー — 推測・想定 —

担い手不足により、大分県農業が衰退する

45歳未満の新規就農者数が少ない

研修制度の
PRが少ない

就農コーチへの
支援が足りない

相談先が
分からない

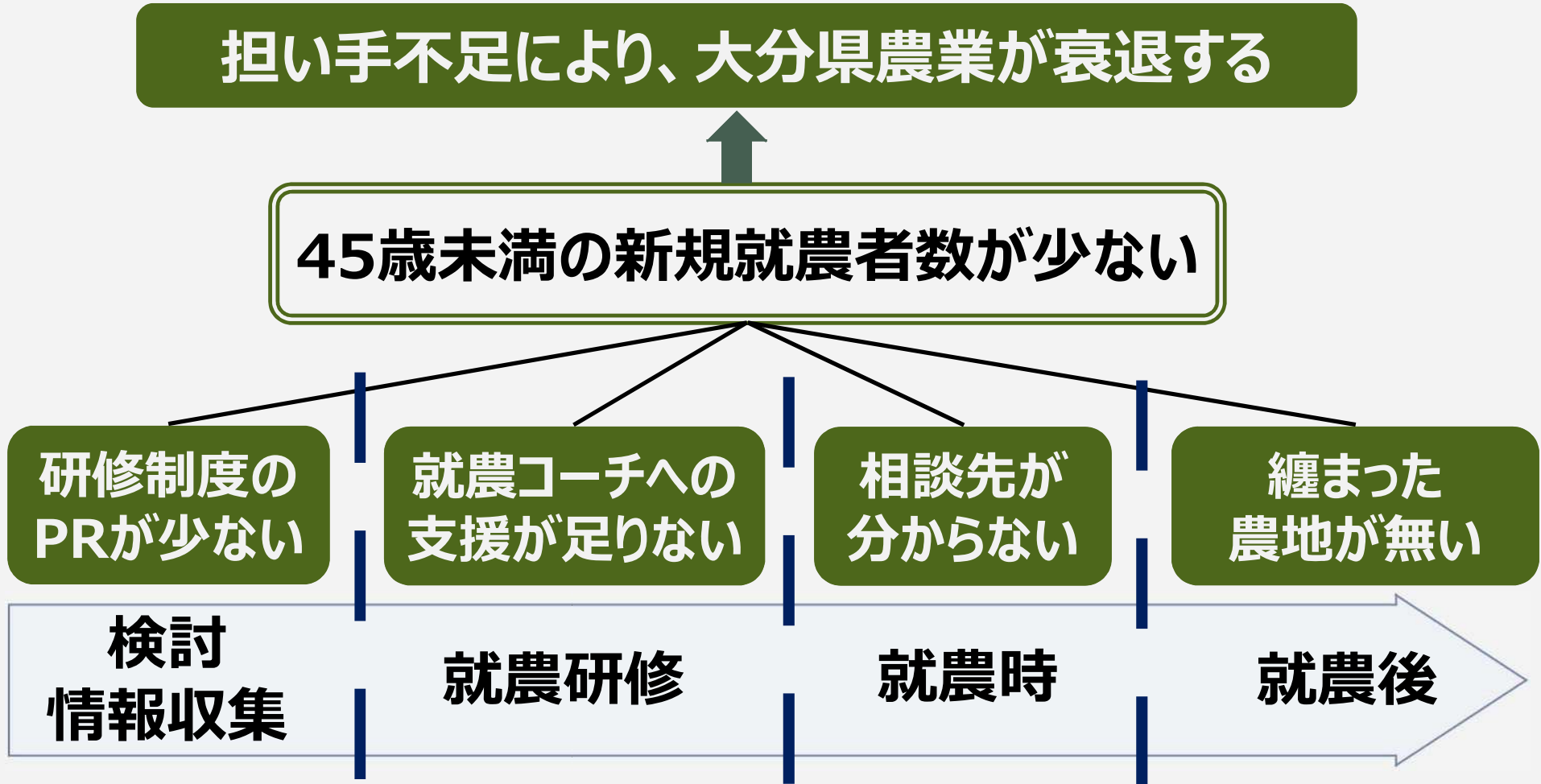
纏まった
農地が無い

検討
情報収集

就農研修

就農時

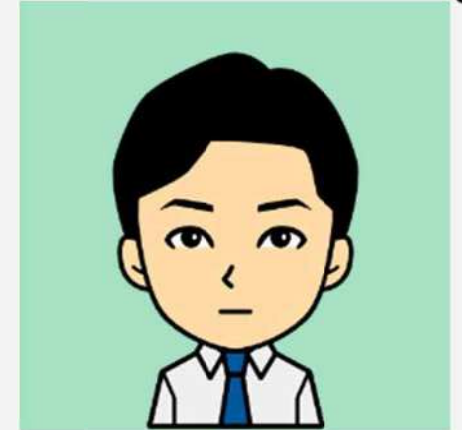
就農後



ペルソナ設定

赤嶺 翔平（35歳）

- ✓ 豊後大野市三重町出身
- ✓ 身長：175cm、体重：65kg
- ✓ 大分県立竹田高校、西南学院大学商学部卒
- ✓ 薬品営業（クリニック対応）
- ✓ 週6日勤務、残業月40時間、年収500万円
- ✓ 趣味：写真撮影（主に風景撮影）、キャンプ動画を見る
- ✓ 妻（37歳、福岡県博多区出身）、息子（1歳）あり
- ✓ 息子がアトピー持ちかつ夜泣きが激しい
- ✓ 妻が食に興味あり（息子のアトピーの関係から）
- ✓ 両親は兼業農家。祖父は農家であったが引退。





※参考 大分県の事業について 農業担い手確保・育成事業

情報発信

- ・SNS広告
- ・TV等メディア

相談会

- ・県主催(年8回)
- ・国主催(年4回)
- ・移住主催(年36回)
- ・平日夜間
オンライン相談

短期体験研修



就農学校や
ファーマーズ
スクール等
の研修
(4泊5日程度)

就農への研修

- ・就農学校
- ・ファーマーズ
スクール
- ・農業大学校
- ・各種給付金等

カスタマージャーニー (BAD END 😞)



対策	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの呼びかけ ・相談会の実施 ・相談窓口が複数 	<p style="text-align: center;">受入体制を充実させる 有効な支援策は無い</p>	
行動	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当窓口へ相談 ・短期研修の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・就農コーチとの関係性悪化 ・研修を辞退 	<ul style="list-style-type: none"> ・職を失う ・家計が悪化 ・地元にも帰りづらい
感情	 <p>期待と不安</p>	<p>相談先が多い... 就農コーチが厳しい 何も教えてくれない また怒られる</p>	 <p>就農しなければよかった...</p>

ヒアリング先選定

大分県
&
大分県農業農村公社

大分県の新規就農相談
等の実態を把握する。

豊後大野市
インキュベーションファーム
※研修生・卒業生含む

就農施設の現状、卒業
後の実態を把握する。

山都町（熊本）

新規就農者の相談から
研修受入体制について
学ぶ。

ヒアリングを受けて

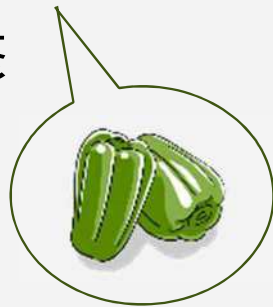
事例比較 / 大分県の先進事例・山都町

研修前

研修中

研修後

- ・PR方法
- ・相談窓口
- ・短期研修




- ・研修辞退者
- ・認定基準
- ・就農コ－チ向けの研修




- ・離農対策
- ・農地・住居確保
- ・年間所得

研修前：地域で暮らすイメージをつくる

	大分県の先進事例 (インキュベーションファーム)	山都町
PR方法	△ 就農フェアは相談時間短い	△ 有機農業全国1位のブランド
 相談窓口	△ 移住と就農が別ブース	◎ 一担当が移住から就農まで支援
短期研修	○ 1回 (既研修生との交流)	◎ 2回 (2軒以上の農家へ)

事例比較 / 大分県の先進事例・山都町

研修中：すべての支援は就農コーチが軸（質の確保が必要）

	大分県の先進事例 (インキュベーションファーム)	山都町
研修辞退者	△ 若干名	— 0名
認定基準	× 受入農家歴のある人に依頼	○ 要綱を定めている
就農コーチ向けの研修 	△ 就農コーチからの要望あり	◎ 失敗事例のテキスト化

事例比較 / 大分県の先進事例・山都町

研修後：所得を伸ばす

	大分県の先進事例 (インキュベーションファーム)	山都町
離農対策	○ 就農後も就農コーチが支援	○ 就農コーチ・行政が定期巡回
農地・住居確保	△ 農地と住居が遠い	△ 先行農家に遅れる
年間所得	◎ 700万円	△ 75万円 ※他品目別計

課題①
就農コーチへの支援が少ない



就農コーチ

他所の指導法を
参考にしたい！



就農コーチ同士が
成功事例・失敗事例を共有
できる環境を支援する

課題②
相談者がたらい回しになる



相談者

地域に頼れる人が
ほしい！



移住から就農まで窓口を
一本化・自動化し、就農に
必要な情報を漏れなく伝える

仮説ツリー - 再想定 -

担い手確保でき、大分県農業が再生する

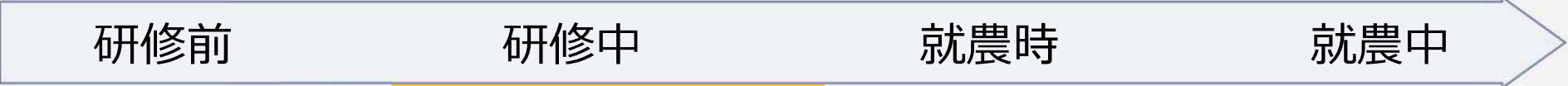
45歳未満の新規就農者数が多い

PR情報に
到達できる

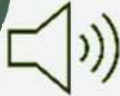
就農コーチを
育成できる

相談先が
見つかる

所得を増やす
技術を得る



事業① 講習会



事業② 生成AIツール

事業提案『担い手受入れ支援事業』

事業①

就農コーチへの講習会

 ポイント



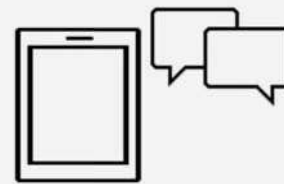
熊本県の
NPO

就農研修への
支援実績が多数

事業②

生成AIツールへの技術蓄積

 ポイント



就農AI
サポーター

いつでも
どこでも
簡単に相談！

事業提案『担い手受入れ支援事業』

事業①

就農コーチへの講習会

 ポイント



熊本県の
NPO

就農研修への
支援実績が多数

事業②

生成AIツールへの技術蓄積

 ポイント



就農AI
サポーター

いつでも
どこでも
簡単に相談！

事業① 就農コーチへの講習会

事業名	担い手受入れ支援事業
所管	新規就業・経営体支援課
内容	講演会および意見交換会
対象者	県内の就農コーチ
講師	NPO法人 熊本県就農支援機関協議会
教材	知って助かる 就農研修受入ガイドブック

出典：NPO法人 熊本県就農支援機関協議会HP



事業① 就農コーチへの講習会

EFFECT 01

指導力向上

ノウハウを正確に

EFFECT 02

意識改革

雇用ではなく研修

EFFECT 03

交流促進

悩みや工夫の共有

EFFECT 04

自己研鑽

自身の経営改善



得られる4つの効果

EFFECT 01

指導力向上

- ・多くの生産者は指導経験が無い
- ・指導に必要な基礎を習得する
(研修生との関わり方、伝え方等)

コーチが有する技術やノウハウを
確実に継承できる



得られる4つの効果

EFFECT 02

意識改革

- ・研修生を労働力と認識してしまう
- ・×労働力 ⇒ ○貴重な担い手

就農コーチによるパワハラや
研修生の過重労働を防ぐ



得られる4つの効果

EFFECT 03

交流促進

- ・就農コーチも多くの悩みを抱えている
- ・互いの悩みや工夫を共有する

横の繋がりを形成して、
課題解決を図る



得られる4つの効果

EFFECT 04

自己研鑽

- ・自身の経営を振り返る機会になる
- ・研修生だけでなく、従業員へ応用

コーチ自身の経営改善にも繋がる



事業スケジュール

START



依頼



打合せ



講習会



2025年
4月

案内



2025年
5月

2025年
12月

実践



2025年
10月

効果検証



GOAL



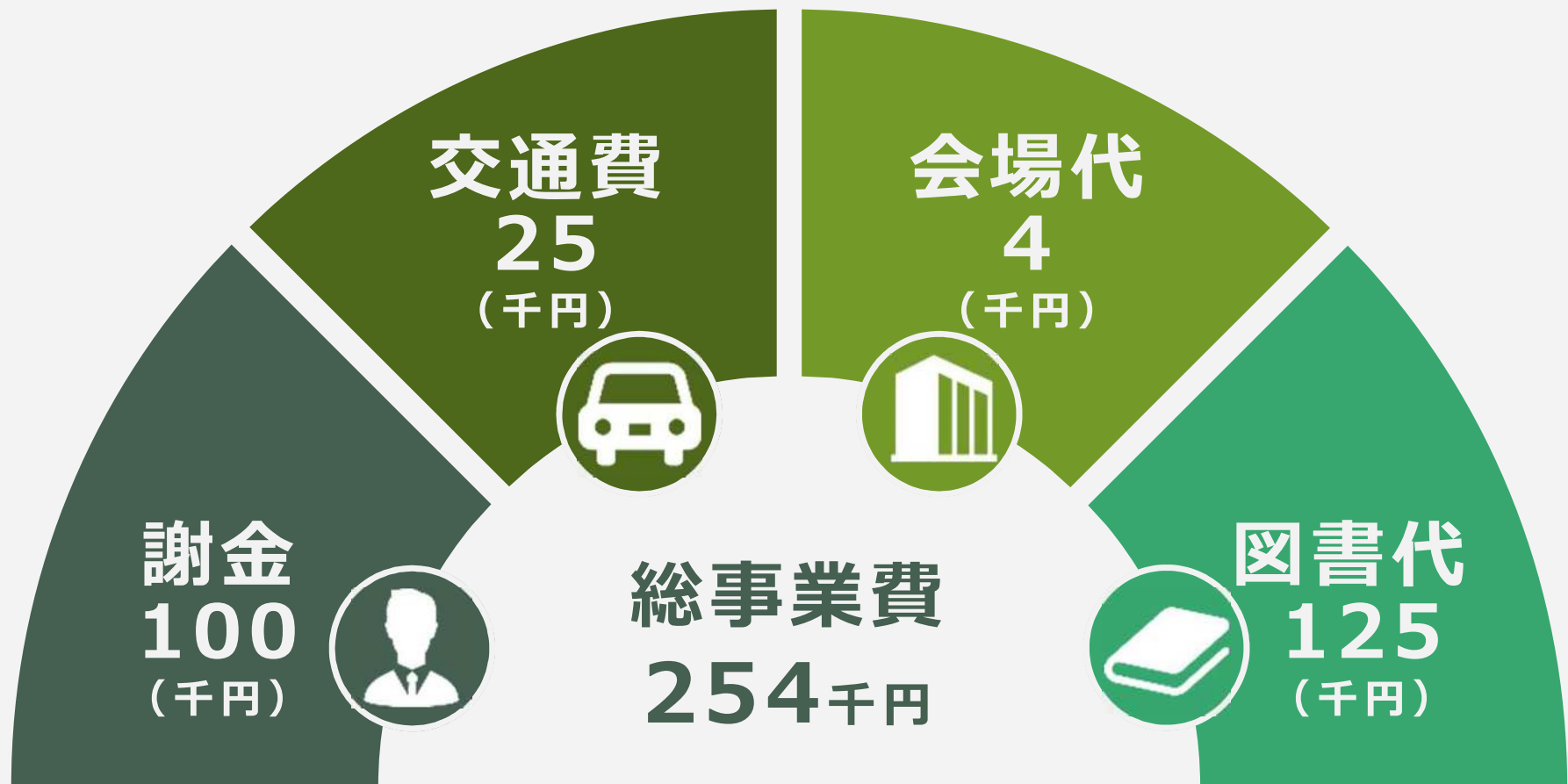
2026年
1月～

2026年
3月



予算

※各研修コースから1名ずつの参加を想定（計62名）



事業提案『担い手受入れ支援事業』

事業①

就農コーチへの講習会

 ポイント



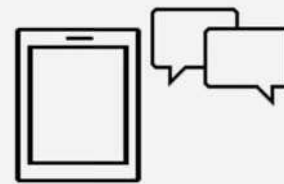
熊本県の
NPO

就農研修への
支援実績が多数

事業②

生成AIツールへの技術蓄積


 ポイント



就農AI
サポーター

いつでも
どこでも
簡単に相談！

カスタマージャーニー (BAD END 😞)

	研修前 	研修中 	研修後 
現状	<ul style="list-style-type: none"> SNSでの呼びかけ 相談会の実施 相談窓口が複数 	受入体制を充実させる 有効な支援策は無い	
行動	各担当窓口へ相談	<ul style="list-style-type: none"> コーチと関係性悪化 研修を辞退 	<ul style="list-style-type: none"> 職を失う 家計が悪化 地元に戻りづらい
感情	 <p>相談先が多くて、面倒... 期待と不安</p>	<p>何も教えてくれない</p> <p>コーチが厳しい。相談しづらい</p> <p>また怒られる</p>	 <p>気軽に相談できる場所が欲しい... 就農しなければよかった...</p>

事業② 移住・就農

事業名 担い手受入れ支援事業
(農業DX推進)

就農相談～栽培指導～物品購入までを行える生成AIツールを導入する。

【期待される効果】

- ①新規就農者：気兼ねなく相談できる場の確保
- ②地方自治体：担当職員の業務負担軽減



相談内容

【研修前】

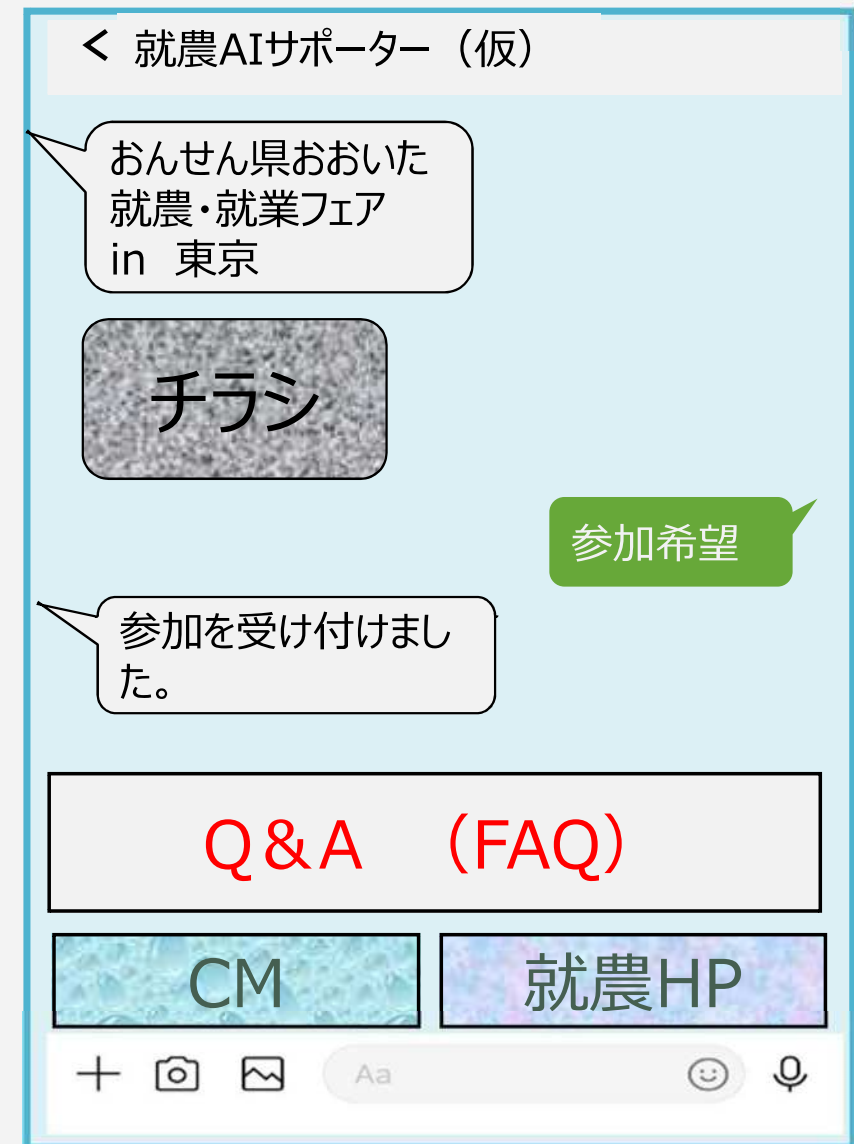
- ・就農相談会の開催
- ・大分県就農支援体制
- ・移住（空き家）子育て情報（学校）

【研修中】

- ・補助金、助成金
- ・農地、遊休施設
- ・就農者ネットワーク

【就農後】

- ・栽培管理、購買斡旋
- ・人材確保、労働力確保



運用方法

システム名	就農AIサポーター『安就多くん』（仮）
運用元	県新規就業・経営体支援課
開発	プロポーザルにて決定
対象者	県内就農を希望する新規就農者 県、市町村の新規就農担当 大分県農業農村振興公社担い手担当
システム利用料	基本無料
内容	新規就農関連の相談が可能である チャットボット型の生成AIツール

事業スケジュール

START



打合せ



システム発注



模擬実践



2025年
4月

説明会



2025年
5月

公式LINE開設



2025年8月

2025年7月

導入実践



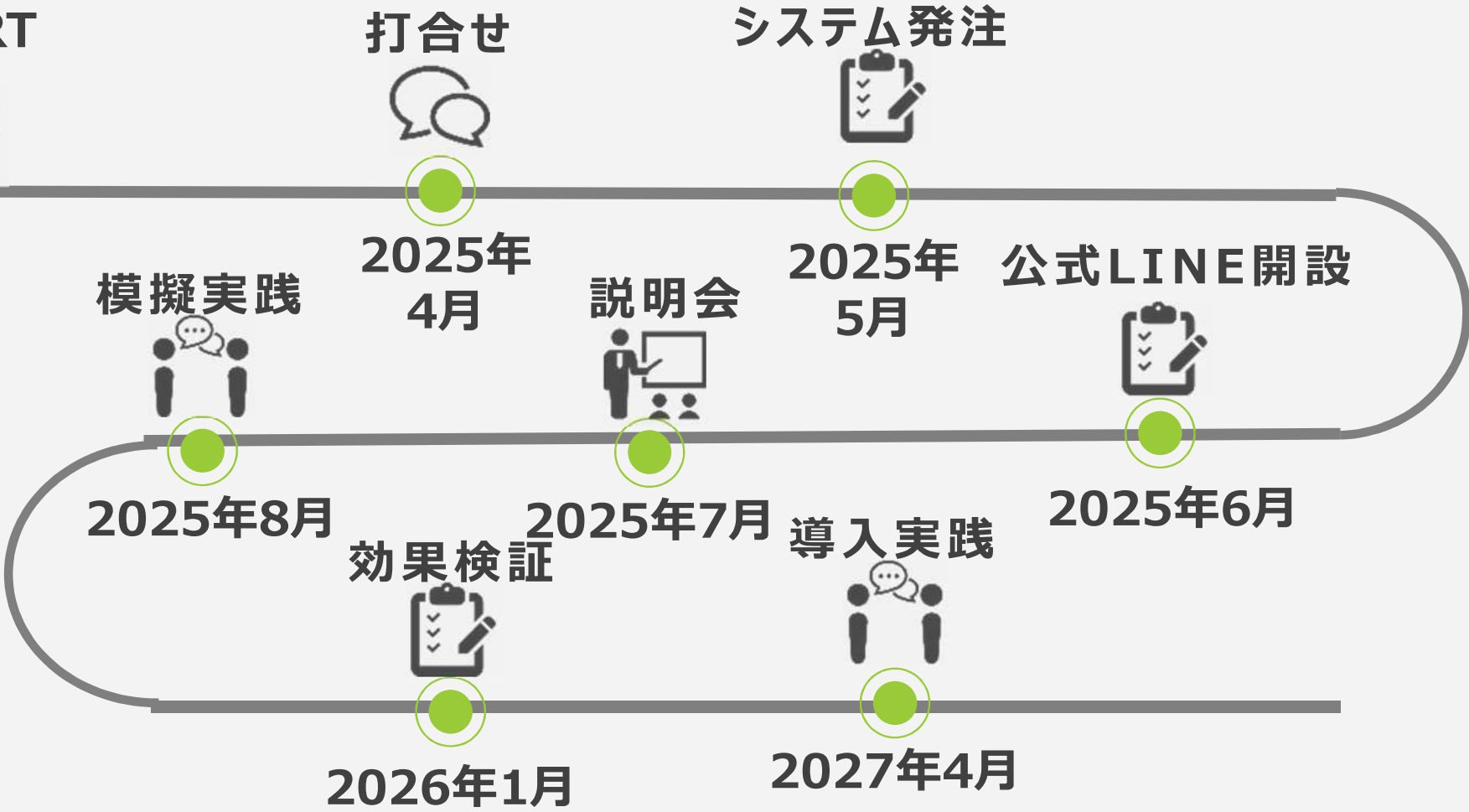
2025年6月

効果検証



2026年1月

2027年4月



事業スケジュール

(2024年度実績)



7/27 8/17 9/7 10/12
東京 大分 大阪 福岡

2025年

2026年



打合せ



システム発注



公式LINE開設



説明会



模擬実践



効果検証

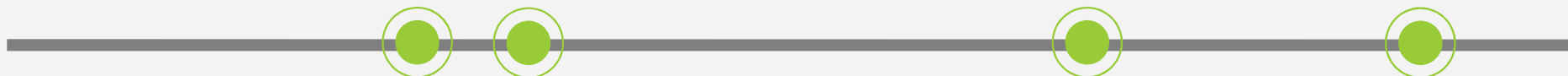


導入実践

本庁



振興局



予算



2025年度

2026年度

1,700
(千円)







1,800
(千円)

※民間企業への聞取り結果より算定
※PV数による月額料金変動なし

カスタマージャーニー (BAD END 😞)

	研修前 	研修中 	研修後 
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの呼びかけ ・相談会の実施 ・相談窓口が複数 	<p>受入体制を充実させる 有効な支援策は無い</p>	
行動	各担当窓口へ相談	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチと関係性悪化 ・研修を辞退 	<ul style="list-style-type: none"> ・職を失う ・家計が悪化 ・地元に帰りづらい
感情	 <p>相談先が多い… コーチが厳しい 期待と不安</p>	<p>何も教えてくれない また怒られる</p>	 <p>就農しなければ よかった…</p>

カスタマージャーニー (HAPPY END 😊)

	研修前 	研修中 	研修後 
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの呼びかけ ・相談会の実施 ・窓口のシステム化 	<p>コーチへの研修会</p>	<p>コーチとの繋がり継続</p>
行動	<p>システムを活用した就農相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた技術の習得 ・人間関係ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーマン就農 ・システム活用 ・コーチを頼る
感情	 <p>困ったらすぐに聞ける！ 期待と不安</p>	<p>指導が分かりやすい！ コーチに何でも聞ける！</p>	 <p>就農してよかった！</p>

課題ツリー - 推測・想定 -

担い手不足により、大分県農業が衰退する

45歳未満の新規就農者数が少ない

研修制度のPRが少ない

就農コーチへの支援が足りない

相談先が分からない

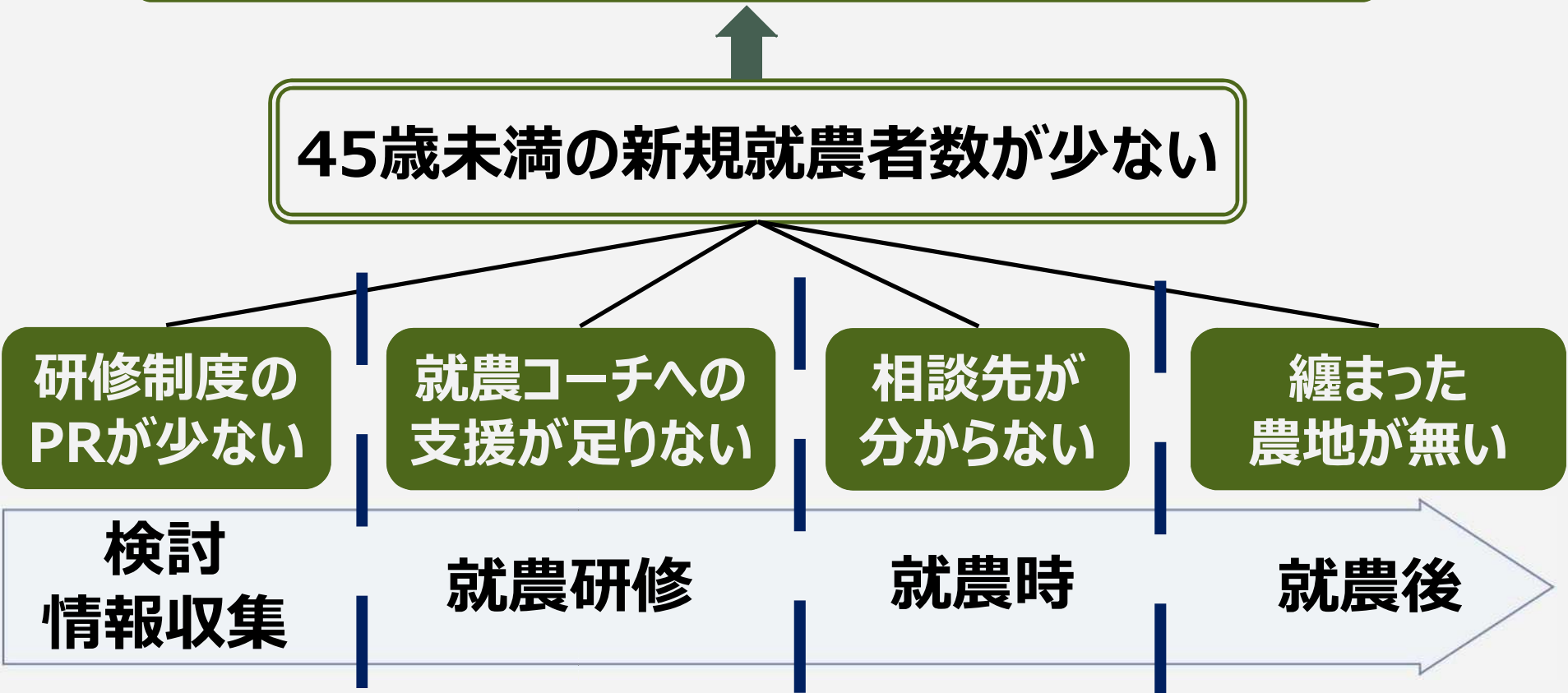
纏まった農地が無い

検討
情報収集

就農研修

就農時

就農後



仮説ツリー - 再想定 -

担い手確保でき、大分県農業が再生する



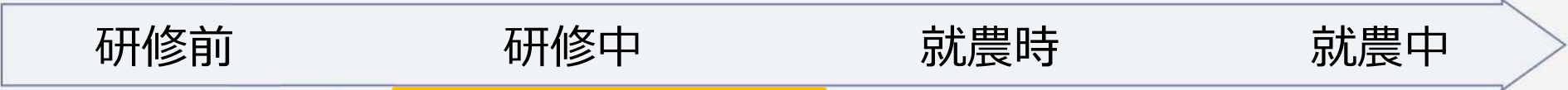
45歳未満の新規就農者数が多い

PR情報に
到達できる

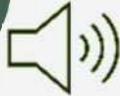
就農コーチを
育成できる

相談先が
見つかる

所得を増やす
技術を得る



事業① 講習会

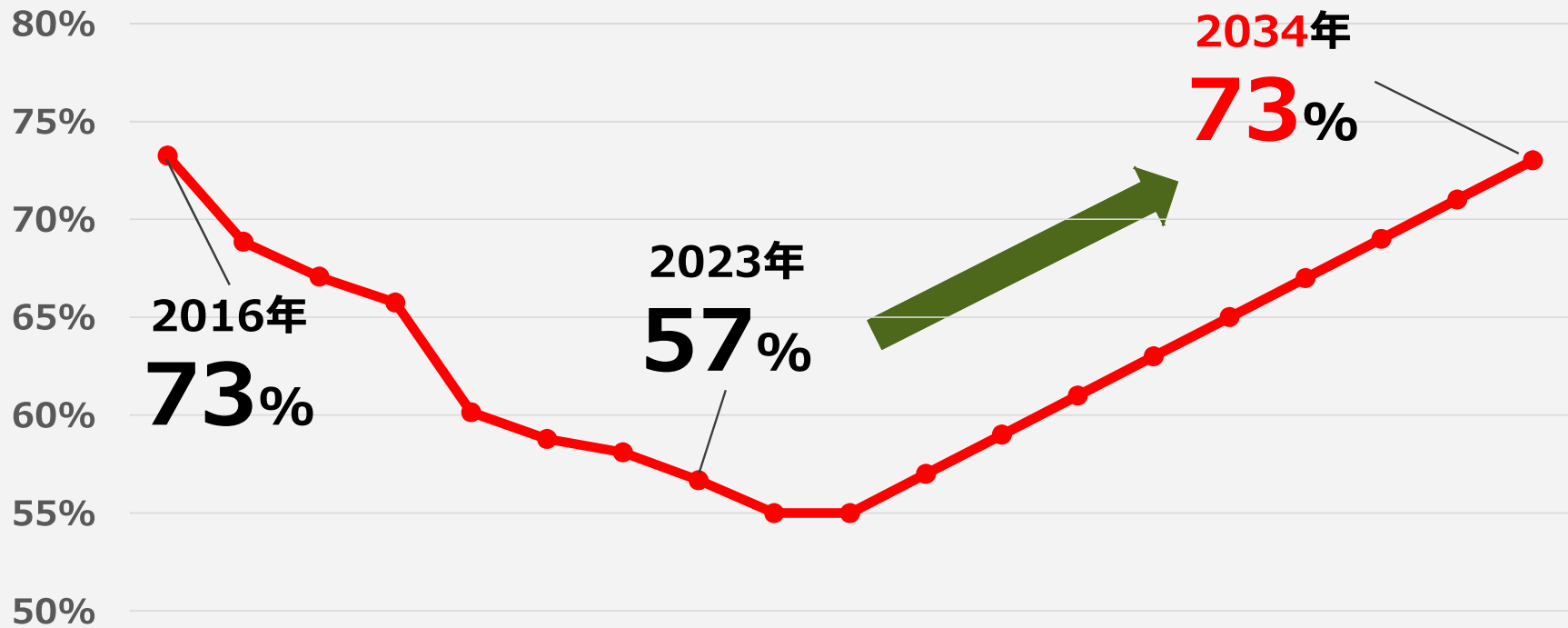


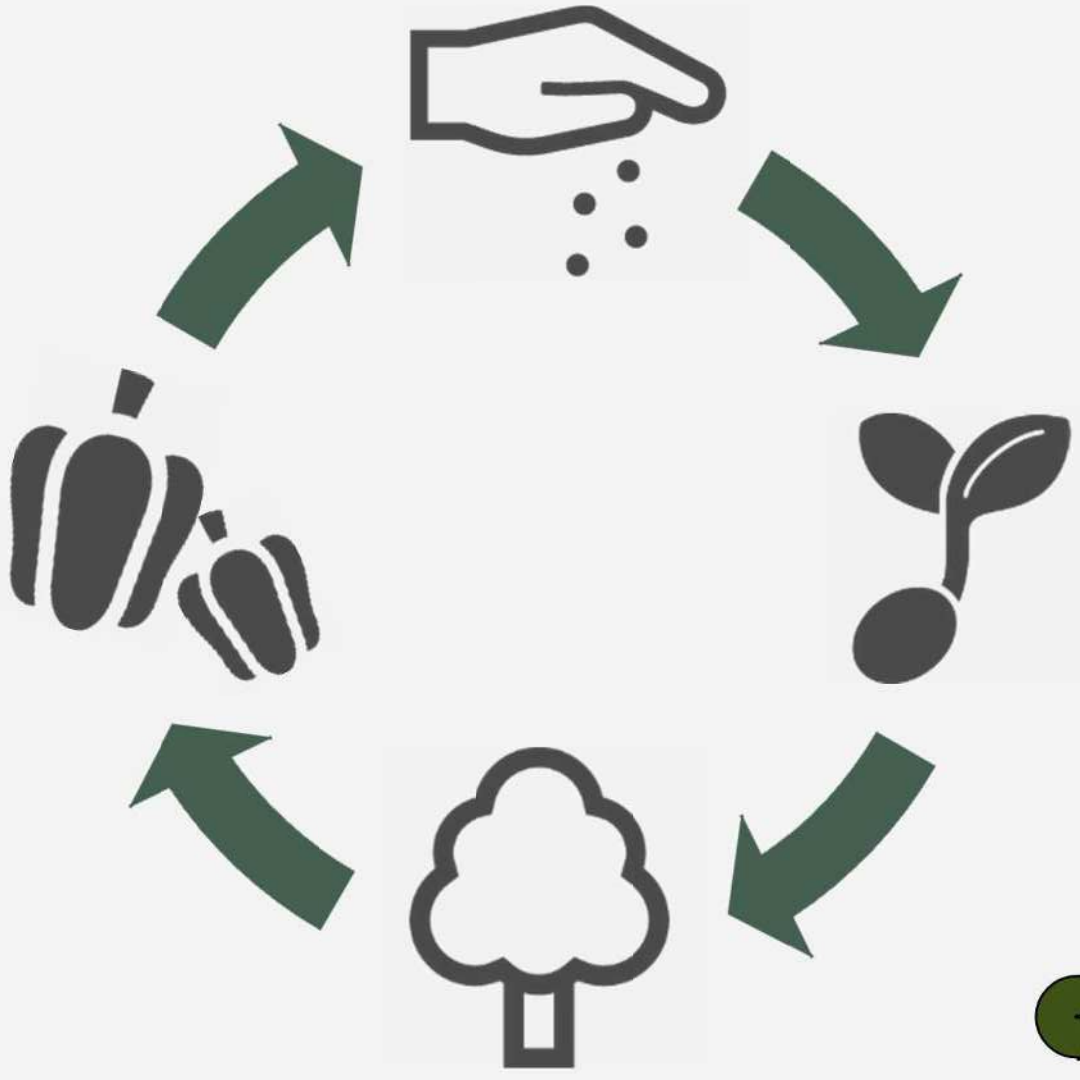
事業② 生成AIツール

数値目標

▶ 10年後に**73%**への回復を目指す

大分県 認定新規就農者数のうち青年の割合（目標）





安定的に
新規就農者を
多く確保する

ご清聴ありがとうございました

Thank you for listening





課題ツリー – 推測・想定 –

担い手不足により、大分県農業が衰退する

45歳未満の新規就農者数が少ない

就農研修への
希望者が少ない

就農研修制度が
充実していない

初期投資を
払えない

農業所得が
少ない

研修制度の
認知度がない

研修指導員が
少ない

資金調達が
出来ない

農業生産性が
低い

研修制度のPRが
少ない

指導員への支援が
足りない

相談先が
分からない

纏まった農地が
無い

検討・情報収集

就農研修

就農時

就農後

ヒアリング①



大分県庁 & 大分県農業農村公社

- ✓ 広報的には、HPやSNS、パンフ等を活用。
相談会参加のきっかけはテレビ広告によるが最も多い。
- ✓ 相談会参加者のうち約3割程度が就農へつながっているという認識。
- ✓ 相談者は、就農相談の中で就農支援制度や研修機関を知ること、興味を持ち入校を検討する。
- ✓ **研修機関に入校後、途中でリタイアとにならないように研修希望者には入校前にお試し研修や審査会を行っている。**

ヒアリング②



豊後大野市インキュベーションファーム

- ✓ 広報的にはHP掲載や相談イベントの参加、テレビ広告等を活用。
- ✓ 移住と就農の相談窓口は分かれている。月1回の定例会で情報共有をしている。
- ✓ 宿舎施設（研修中のみ）や、就農後の住居や農地の斡旋があることが就農へつながっている。
- ✓ 卒業生の住居は、空き家のリフォームが多い。空き家の所有者は売買を希望しているが、卒業生は賃貸を希望している。
- ✓ 研修生受け入れ農家同士の交流の場が欲しい。研修生への対応等について、情報共有したい。



ヒアリング③ 熊本県山都町役場

- ✓ 広報的にはチラシや町報で対応しているが、ネットで「有機農業」で検索すると山都町がヒットするほど知名度あり。
- ✓ 就農及び移住の相談業務を民間団体に委託することで、専門的かつ迅速な相談対応が可能となっている。
- ✓ 研修生受入農家へ向けた町主催の研修会を年1回開催。受入農家の交流の場ともなっている。
- ✓ 農地や住居の情報について、県側と情報共有がされていないため積極的な情報共有を行って欲しい。

組織体制図

